はじめに

みなさん、こんにちは！　平垣 聖大です。Instagramでは「こんこ」という名前で板書を投稿しています。

本書では、国語・算数・理科・社会の主要４教科を中心に板書の「型」を紹介しています。紹介している板書の写真は、すべて子どもたちと一緒に授業したときの実際のものです。板書と授業内容をリンクさせながら、より具体的に、どのように板書するとよいかをイメージしながら読み進めていくことができる仕様となっています。

本書を手に取ってくださった先生方は、きっと、板書に対して悩みをもたれていたり、「もっとわかりやすくて見やすい板書をしたい！」「板書を変えたい！」と思われていたりするのではないかなと思います。

私もそうでした。私の板書はぜんぜんダメダメでした。子どもたちが学級会のときに書く板書のほうがきれいでわかりやすいのではないかと思ったほどに……です。

同僚の先生方からも、幾度となく「板書、がんばらないと……！」と言われ続けていました。そんな恥ずかしすぎる１年目の板書を第１章に載せています。ぜひ、ご覧ください。「これよりかは、自分の板書のほうが見やすいわ！」と、きっと安心すると思います（笑）。

授業をするときに、毎回、最も悩むのが「板書」でした。その中でも、私の中で一番わからず、ピンとこず、悩んでいたのが「**わかりやすくて見やすくするために、何を板書すればいいのか**」という具体の部分です。

キーワードの羅列のような板書になったり、教師のメモのような板書になったりと、わかりにくい板書しかできていませんでした。

「毎時間、板書計画を立てるといい」とも学びました。でも、毎日の仕事をこなすことで一生懸命で、とてもじゃないけど、全教科毎時間分、ゼロから板書を考えるなんて無理でした。「ハウツーが知りたーい！型みたいなのがないんかーい！」と何度心の中で嘆いたことか……。

そして、思うわけです。「**『こういう授業内容のときは、こんな型を使って板書すればいいよ』『具体的にはこんな板書だよ』っていうのが、国語・算数・理科・社会、すべて１冊でわかる本があればいいのになあ……」と。本書は、そんな私の思いを形にした１冊です。**

たくさんの板書の写真を載せています。そして、“型”として紹介しているので、アレンジして使いやすい場面もイメージしやすいのではないかと思います。

本書は、この１冊で、主要４教科の型が網羅できるようになっています。各教科に特化した板書本はこれまでも多数出ています。私もたくさん持っていて、それらの本にヒントをたくさんもらっています。授業づくりをする上で、何度も読み返しているのが「板書本」です。その中で、毎回新しい発見や気づきがあります。本書も同じように、国語の板書で、算数の板書で、理科の板書で、社会の板書で、悩んだときに何度も何度も辞書のように、読み返していただけるような１冊になればいいなと思っています。

本書は、樋口万太郎先生が背中を押してくださりまとめることができました。樋口先生には心から感謝申し上げます。

本書が、板書に対して悩みをもたれている先生、「もっとわかりやすくて見やすい板書をしたい！」「板書を変えたい！」と思われている先生の突破口になれば幸いです。

2024年11月

平垣　聖大

監修者のことば

本書は板書の描き方のスキルを学ぶだけの一冊ではありません。タブレット端末が教室にやってきて、数年。これまで教員があたりまえにしてきた行為である「板書」の意義が問われている現在。読者のみなさんはなんのために、板書をするのでしょうか。そういった意義についても学べる一冊になっています。

さまざまな教室に授業参観で伺ったとき、授業終わりに板書を端末で写真を撮る子に出会うことがあります。平垣先生本人に聞いたことはありませんが、きっと平垣学級の子どもたちは写真を多く撮っていることでしょう。子どもたちは、「今後の学習で参考になる」「思い出に残しておきたい」など板書に意味を見出したとき、写真を撮るのです。平垣先生の板書は、子どもたちが意味を見出す板書なのです。

平垣先生の板書には「子どもの事実」が描かれています。子どもが授業でたくさん発表をしても、授業者の都合の良い考えだけを板書に表現するといった板書に出会うことがあります。平垣先生の板書はそうではなく、目の前にいる子どもの事実をもとにした板書になっているのです。

そして、平垣先生の板書には「子どもたちにまっすぐ向き合っているという先生の想い」が描かれています。今の時代、熱血教師というと時代と合わないのかもしれません。でも、AI がここまで発達してきた、デジタルの世界に生きている子どもたちだからこそ、しっかりと先生と子ども、子どもと子どもがお互いに向き合う必要があります。そういった板書になっているのです。

このようなことを読者のみなさんに感じてもらえると幸いです。

中部大学 現代教育学部 准教授
樋口　万太郎

もくじ

1章 授業を変えたい！板書を変えたい！と思ったら

安心してください！　板書のレベルは上げられますよ！ …… 12

板書を変えたいあなたに伝える4つのポイント
～まっすぐ書く・行間・筆圧・定規を使う～ …… 14

作っておくと便利！　ラミネートした貼りもの …… 16

GIGA スクール時代“でも”板書は大事なツールの1つ …… 18

子どもたちの「わかった！」「そういうことか！」につながる板書 …… 20

「自立した学習者を育てる」ことにつながる板書 …… 22

単元丸ごと授業づくりのススメ～授業準備の貯金をしよう！～ 24

2章 実例を大公開！「型」が思考を助ける！国語科の板書術

これだけは押さえておきたい
国語科授業＆板書づくりのポイント …… 28

こんなときはベン図型！①　段落と段落を比べるとき …… 30

こんなときはベン図型！②　事例と事例を比べるとき …… 32

こんなときはベン図型！③　登場人物同士を比較したいとき …… 34

こんなときは対比型！①　納得解の話し合いをしたいとき …… 36

こんなときは対比型！②　それぞれの視点から考えるとき …… 38

こんなときはウェビング型！①　登場人物の情報を整理したいとき … 40

こんなときはウェビング型！②　登場人物の気持ちを考えるとき …… 42

こんなときはウェビング型！③
知っていること・わかったことを整理するとき …… 44

こんなときは構成型！①　全体像を理解させたいとき（説明文） …… 46

こんなときは構成型！②　「中」を予想するとき …… 48

こんなときは人物相関図型！　人物の関係性を表したいとき …… 50

こんなときは変容型！①　心情曲線で心の動きを表したいとき …… 52

こんなときは変容型！②　前後でどう変わったかを表したいとき …… 54

こんなときはＸチャート・Ｙチャート型！①
それぞれの視点で整理したいとき …… 56

こんなときはＸチャート・Ｙチャート型！②　言葉集めをしたいとき … 58

3章 基本の「型」で授業がスムーズに！ 算数科の板書術

これだけは押さえておきたい
算数科授業＆板書づくりのポイント …… 62

こんなときはベン図型！ 2つのやり方を比較したいとき …… 64

こんなときは対比型！ 2つの問題例を比較したいとき …… 66

こんなときはXチャート型！ 4つの解き方で分類したいとき …… 68

こんなときはYチャート型！ 3つの解き方で分類したいとき …… 70

こんなときはイラスト型！
問題文を具体的にイメージさせたいとき …… 72

こんなときは巻き物型！ 虎の巻のようにして強調したいとき …… 74

4章 「型」で子どもの理解が進む！ 理科の板書術

これだけは押さえておきたい
理科授業＆板書づくりのポイント …… 78

こんなときはベン図型！ 2つの事柄を比較したいとき …… 80

こんなときは対比型！
実験Aと実験Bのそれぞれの内容を整理したいとき …… 82

こんなときは循環型！
一定の順序が繰り返されていることを気づかせたいとき …… 84

こんなときはイラスト型！
イラストに表すことでわかりやすくしたいとき …… 86

こんなときはXチャート・Yチャート型！
実験内容をイメージしやすくしたいとき …… 88

5章 「型」で子どもの考えをまとめ、整理する！ 社会科の板書術

これだけは押さえておきたい
社会科授業＆板書づくりのポイント …… 92

こんなときはベン図型！ 2つの事柄を比較したいとき …… 94

こんなときは対比型！ 納得解の話し合いをしたいとき …… 96

こんなときは循環型！
一連の流れが繰り返されていることを表現したいとき …… 98

こんなときはウェビング型！①
知っていること・わかったことを整理したいとき …… 100

こんなときはウェビング型！②
子どもたちが追究したことを板書でつなげていきたいとき …… 102

こんなときはＹチャート型！
1つの事柄を3つの視点で整理したいとき …… 104

こんなときはＸチャート型！
1つの事柄を4つの視点で整理したいとき …… 106

6章 番外編！ いろいろな場面で使える板書術

4教科以外でも板書は工夫できる!!　図工・音楽・道徳でも …… 110

教科以外でも板書は工夫できる!! …… 112

「朝の黒板メッセージ」で何を伝えるか？ …… 114

子どもたちを想って書く！　朝の黒板メッセージ …… 116

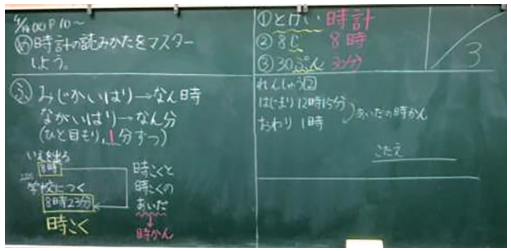
「朝の黒板メッセージ」でほめる！ …… 118

子どもとつくる「朝の黒板メッセージ」 …… 120

安心感のある教室をつくる …… 122

板書を変えたいあなたに伝える４つのポイント
～まっすぐ書く・行間・筆圧・定規を使う～

丁寧に字を書くことを意識する



右の写真は、私が１年目のときの算数の板書です。当時の子どもたちに申し訳ないですが、今見てもひどすぎる板書です。最近の初任の先生たちの板書のほうがはるかに美しいし、整理されています。

板書について、本気で学ぶようになってから、まず私が意識したことは、時間がかかったとしても、丁寧に字を書くことを大切にすることです。

私が Instagram で板書を投稿するようになったのも、「みんなに見られているぞ」という緊張感をもつためでもあります。みんなに見られても恥ずかしくない字で書けるようになろうと思いました。意識して取り組むとだんだんとはやいスピードでも、丁寧に字を書くことができるようになっていきました。

板書を変えたいあなたに伝える4つのポイント

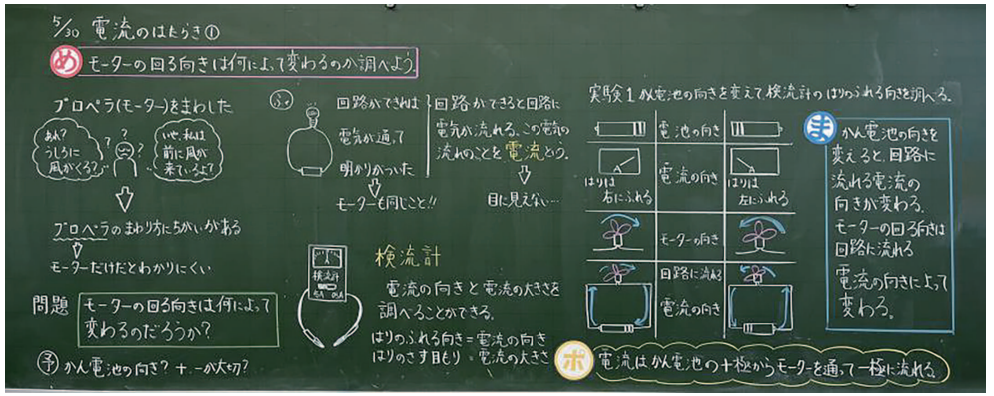
「当たり前でしょ？」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、丁寧に字を書くことを意識する以外にも、次の４つのことを意識すると板書が変わります。

ポイント①　まっすぐ書く

横書きも縦書きも、字をまっすぐに書くことが大事です。横書きでは下のラインを、縦書きでは右側のラインを揃えるように意識しています。

ポイント②　行間

程よく行間が空いているからこそ、見やすくてわかりやすい板書になります。ですが、行間の空けすぎは逆に読みにくくなるので注意が必要です。



ポイント③　筆圧

実は、この「筆圧」がけっこう重要です。筆圧の強い濃い字だと、後ろの席から見ても、はっきりと読むことができます。字を濃く書くだけでも、板書が変わったように見えます。筆圧を強くするようになってから、慣れるまでは、よく腕が筋肉痛になっていました！（笑）

ポイント④　定規を使う

線を書くときに定規を使う、これだけでも見栄えが変わります。フリーハンドで書くとガタガタして見えてしまい、雑に感じられます。

作っておくと便利！ ラミネートした貼りもの

一度作るといつでも使える

めあての「め」、まとめの「ま」、ポイントの「ポ」など、よく使うものはラミネート加工し、貼りものとして作っておくと便利です。一度作っておくと何年も使えます。

貼るだけなので、時間短縮にもなります。

【特によく使うラミネートした貼りもの】

�め：めあて　�ま：まとめ　㋪：ポイント
前・後：変容を表したいときに使う。
Plan Do Check Action：PDCA サイクルで当てはめたいときに使う。
たてる　かける　ひく　おろす：わり算の筆算で使う。
×：ここには書かないことを示すときに使う。
ちょっと待てぃ‼：子どもたちから「あれ？　おかしいぞ」みたいな反応が出てきたときに使う。
イラスト：子どもたちの描いたイラストです。

子どもたちの描いたイラストを板書に用いる

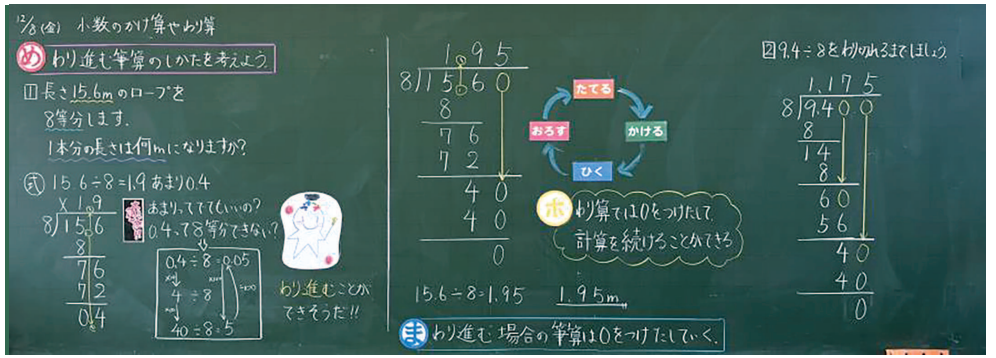
子どもたちが描いてきたイラストを板書上に用いることもしています。イラストを描いてきた子は、板書上に登場するたびに、うれしそうにしています。こうしたイラストは算数や理科の授業で、次のように問いかけるときによく使います。

（例）「この前の問題と変わったところってどこかな？」「予想は？」
「何が、『あれ？おかしいな？』と思ったの？」

そして、その問いかけに対して、子どもたちから出てきた意見をまとめた言葉を書くときに、イラストを板書に貼り、そのイラストに吹き出しを描いて、子どもたちから出たつぶやきをその中に書きます。

【ラミネートした貼りものを用いた実際の板書】

４年生算数科「小数のかけ算やわり算」（12 時目）



この板書では、�め、㋮、㋪、ちょっと待てぃ‼、たてる、かける、ひく、おろす、子どもの描いたイラストを使用しています。

GIGAスクール時代“でも”板書は大事なツールの1つ

タブレットは手段!!

世はまさに、GIGA スクール時代。教師も常に新しい教育観をアップデートしていくことが求められている時代です。

タブレットが導入されたことで、今まで「あんなことといいな～♪　できたらいいな～♪」だったことが、たくさんできるようになりました。

もちろん、私のクラスでも、子どもたちは積極的にタブレットを活用しています。ですが、教師も子どもも気をつけなくてはいけないことは、タブレットを使うことが目的とならないようにすることです。文房具の１つとして使う、あくまでもタブレットは手段なのだと子どもたちにも伝えています。

アンケートの結果から

さて、タブレットが導入されたことで授業も大きく変わってきています。よく研修やセミナーなどでも「紙か？　タブレットか？」「アナログか？　デジタルか？」みたいな二項対立的な質問を耳にすることがあるのではないでしょうか？

あるとき、Instagram で「GIGA スクール時代のこれからも板書は大事？」というアンケートをとりました。すると次のような結果になりました。

結果　計 565 票
は　い（そう思う）……　535 票（95%）
いいえ（そうは思わない）……　30 票（ 5%）

この結果からも、GIGA スクール時代の今も、やはり板書は大事であると考えている方が多いことがわかります。

ノートは思考する場

少し話が変わりますが、私が Instagram に板書を投稿すると、時々、「これを子どもたちはノートに写すのですか？」と質問されることがあります。たしかに、ノートに写している子もいますが、「ノートに写しなさい」と伝えてはいません。板書したことを写してあるかどうかを確認するためにノートを集めたこともありません。

ノートは思考する場です。それが必ずしもノートである必要もありません。タブレットに置き換わるというのも、それはそれでいいと思います。**ノートは黒板に書いてあることとそっくり同じことが書かれてあることが大事なのではなく、思考した跡が残っていることが大事なのです。**

だからこそ、私は子どもたちのノートのことは考えず、思考したことが板書で集約されるように、なおかつ、わかりやすく見やすい板書となるように工夫するようにしています。その板書を手元に残したいなら、ノートに写さなくてもタブレットで撮影すればいいのです。

これからの時代、「黒板を丸写しするノート」というのは、きっと衰退していくでしょう。ですが、板書は思考するためのツールとして、これからもやはり大切にしていくべきものの１つなのです。

これだけは押さえて おきたい国語科授業& 板書づくりのポイント

国語科で押さえるべき3つのポイント!

①単元で押さえる内容を確認する。
②単元のゴールを考える。
③ゴールまでの過程を考える（主な活動内容、主な発問など）。

国語科の授業をつくるときには、単元丸ごとで考えることを特に大事にしています。そうすることで、前時と次時のつながりが見えてきて、子どもの思考の流れや子どもたちの問いに合わせた授業展開ができます。

まず、朱書きの教科書（教師用教科書）を使って、その単元で押さえる内容（指導目標）を確認します。それを意識した単元のゴールを設定します。

そして、子どもの思考の流れをイメージしながら、どのような過程でそのゴールに向かっていくかを考えます。

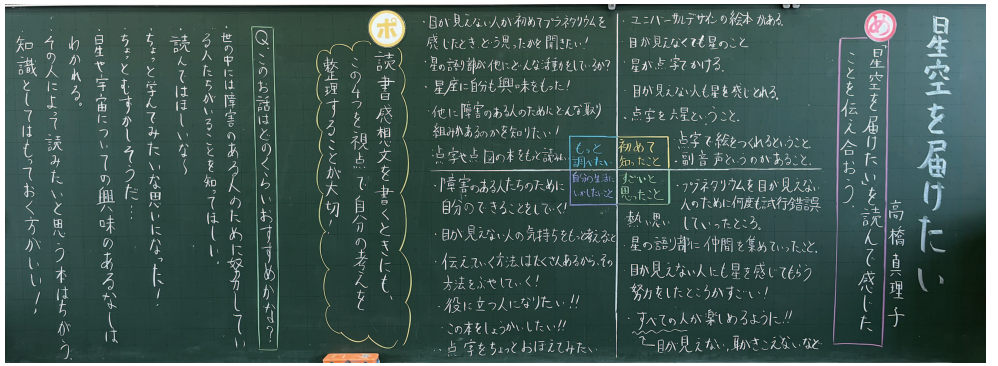
「読む」単元であれば、どのような活動をするか、どのような発問をするか（どの問いを扱うか）を考えます。「書く」や「話す・聞く」では、発問を考える前に、子どもたちが活動を進めていく時間とポイントを押さえる時間の比率を決めます。

忙しいときは、最低限ここまでできていれば大丈夫です！

もう１歩進みたい人は、ゴールまでの過程が決まったら、そこから活動内容に合わせた板書を考えていくようにします。**ここまでできたらもう安心です！**

実際の板書でイメージする!!　授業&板書づくりのポイント

（例）６年生国語科「星空を届けたい」（４時目）



指導目標　「星空を届けたい」を読んで、自分の考えをまとめ、感想を友達と交流できる。

活動内容　「初めて知ったこと」「すごいと思ったこと」「もっと調べたいと思ったこと」「自分の生活にいかしたいと思ったこと」という４つの視点で友達と感想を交流する。

主な発問　このお話はどのくらいおすすめかな？

上の板書は、板書計画の段階では、Ｘチャートの枠と４つの視点、ポイント、発問だけしか書いてありませんでした。板書計画と言えるかどうかもあやしいところです（笑）。授業づくりにかけた時間もとても短いです（10 分弱）。

授業は子どもたちと一緒につくっていくものです。板書計画があると安心しますし、私も板書計画をつくっておくことをおすすめはします。ですが、時間がないときなどは、３つのポイントを押さえながら、子どもたちから出てくる言葉を使って、その場で板書を考えることもあっていいと思います。

こんなときはベン図型！①

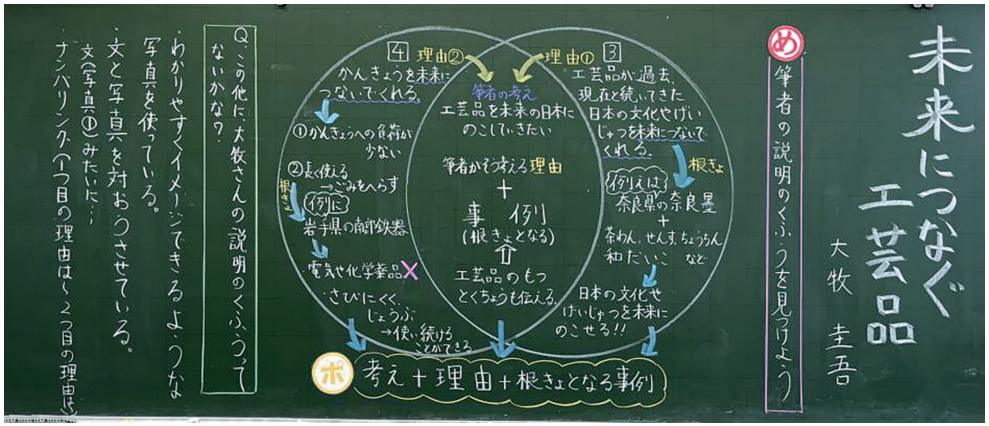
段落と段落を比べるとき

比べることで違いに気づかせる

ベン図型の板書は、説明文の段落と段落を比べたいときに使うと効果的です。筆者の書き方の工夫に気づいたり、共通点を見つけたりしやすくなります。物語文の場面と場面を比べるときにも効果的です。

実例１　４年生国語科「未来につなぐ工芸品」（３時目）

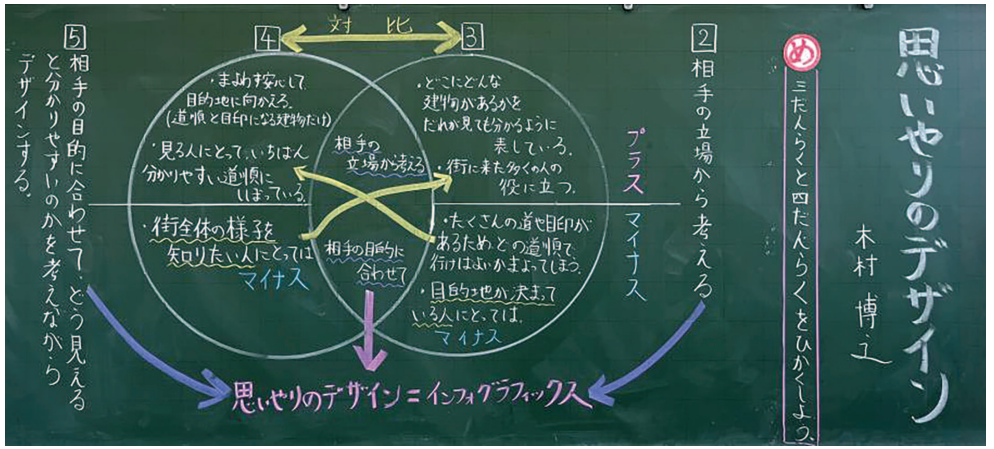
活動内容　筆者の考えに対しての理由が書かれてある３段落と４段落を比較することで、筆者の自分の考えに対する理由、その根拠になる事例をベン図でまとめることで、その考えに説得力をもたせようとしていることに気づかせる。



主な発問　・３・４段落の書き方でどんなところが似ているかな？
・このほかに、大牧さんの説明の工夫ってないかな？

実例２　４年生国語科「思いやりのデザイン」（２時目）

活動内容　筆者が３・４段落で紹介している２つのインフォグラフィックスの例に対してのプラス面とマイナス面をベン図で整理して書き、筆者の主張をとらえさせる。



主な発問　・それぞれのインフォグラフィックスのプラス面とマイナス面は何かな？

書き方の工夫を見つけまねしていく

説明文を読むときには、本文の内容理解ばかりに重点を置くのではなく、筆者の書き方の工夫を見つけることが大切です。自分が説明する文を書くときや話をするときに、それをまねしていくことで、相手にわかりやすく伝えることができるようになっていくはずです。

こんなときはベン図型！②

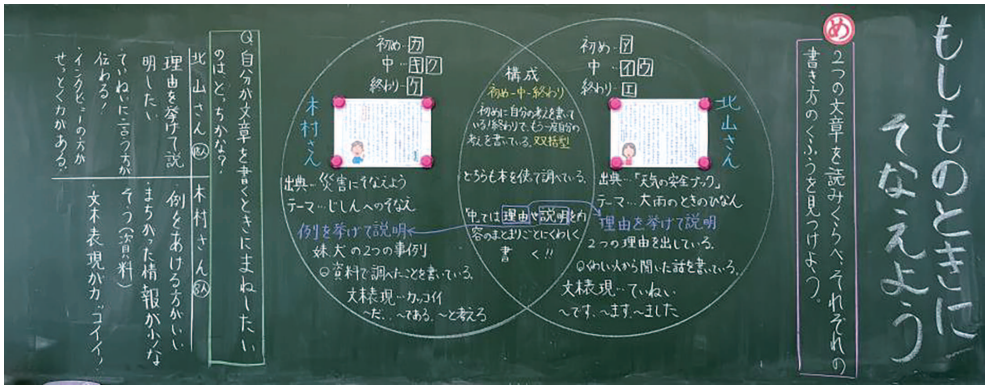
事例と事例を比べるとき

それぞれの事例の特徴・工夫に気づかせる

ベン図型の板書は、事例と事例の比較に使うのも効果的です。どっちの事例がよいか・悪いかではなくて、それぞれのよさがあり、それがその事例の特徴・工夫であることを明確にすることができます。

実例１　4年生国語科「もしものときにそなえよう」（3時間目）

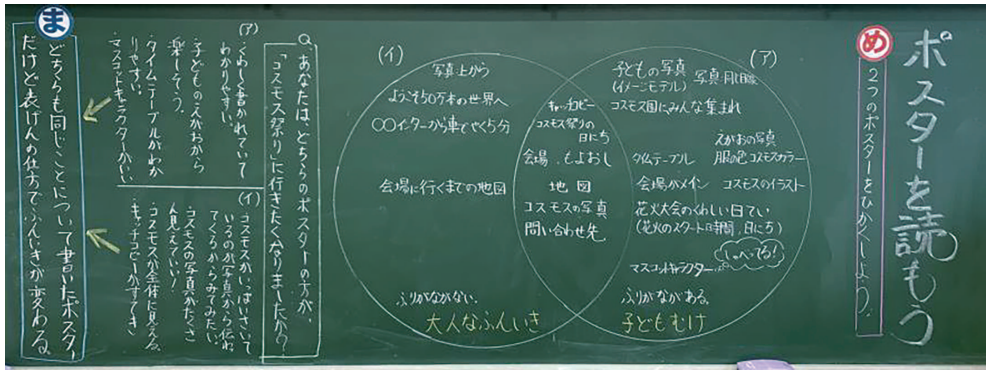
活動内容　２つの文章を読み比べ、ベン図でそれぞれの書き方の工夫を整理する。そして、自分が文章を書くときにまねしたいのはどちらかを選び、具体的にどんなところをまねしたいのか自分の考えをもつ。



主な発問　・それぞれの文章の書き方の工夫って何かな？
・自分が文章を書くときにまねしたいのはどちらかな？

実例２　3年生国語科「ポスターを読もう」（2時間目）

活動内容　同じ内容について書かれた２種類のポスターをベン図で比較して、それぞれの特徴をつかむ。そして、それぞれのポスターによさがあることに気づかせる。



主な発問　・あなたは、どちらのポスターのほうが「コスモス祭り」に行きたくなりましたか？

インプットとアウトプットを意識させる

「書く」領域において、子どもたちが文章を書く前に、書き方の工夫を見つける活動を取り入れることがあると思います。

書き方の工夫を見つけるだけで終わるのではなく、**「具体的にどの工夫をまねしてみたいか」まで考えさせることが重要**です。インプットしたことをアウトプットすることを意識させるためです。まねをすることは悪いことではありません。いいと思った書き方はどんどん取り入れていくことができる子どもたちを育てていきたいです。

こんなときはベン図型！③

登場人物同士を比較したいとき

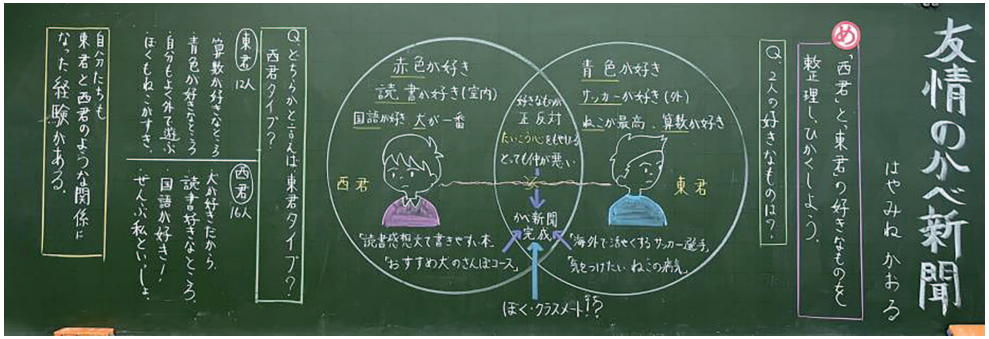
登場人物の設定の違いを明確にする

ベン図型の板書は、登場人物同士を比較したいときにも効果的です。物語文では、対比的な性格、考え方などになっている関係性の登場人物が出てくることがあります。

そのような物語文では、ベン図型で整理することが多いです。

実例１　4年生国語科「友情のかべ新聞」（2時間目）

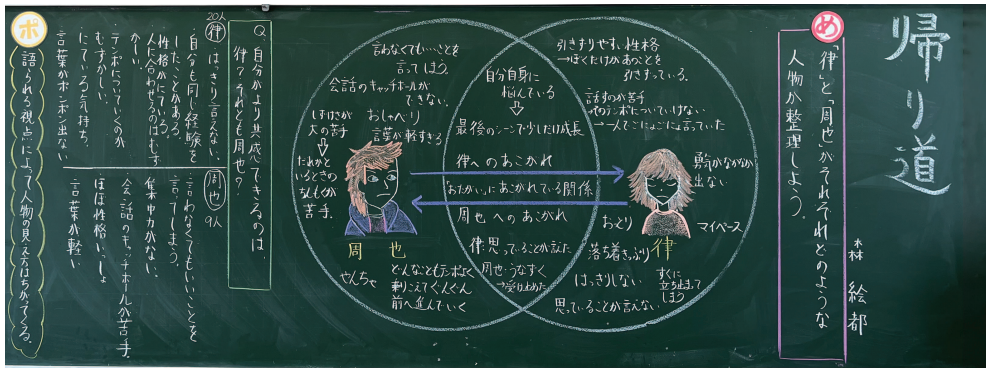
活動内容　子どもたちが混乱せずに内容を理解していくことができるようにするため、本文から「西君」と「東君」の好きなものを見つけ、ベン図で整理する。



主な発問　・「西君」と「東君」がそれぞれ好きなものは何かな？
・どちらかと言えば、東君タイプ？　西君タイプ？

実例２　6年生国語科「帰り道」（3時間目）

活動内容　律の視点から書かれた「１」と周也の視点から書かれた「２」の両方の本文から、２人の特徴や性格を読み取り、ベン図で比較する。そして、語られる視点が違うと、登場人物の見え方が変わってくるということに気づかせる。



主な発問　・自分がより共感できるのは、律かな？　それとも周也かな？

応用できるほかの教材

「友情のかべ新聞」や「帰り道」のほかにも、対比的な性格の登場人物が出てきたり、対比的な考え方が描かれていたりする物語があります。ぜひ応用してみてください！！

・２年生国語科「お手紙」（がまくんとかえるくん）
・２年生国語科「スーホの白い馬」（スーホと殿様の白馬への思い）
・３年生国語科「モチモチの木」（医者様とじさまの考え方）
・５年生国語科「銀色の裏地」（理緒と高橋さん）　など

こんなときは対比型！①

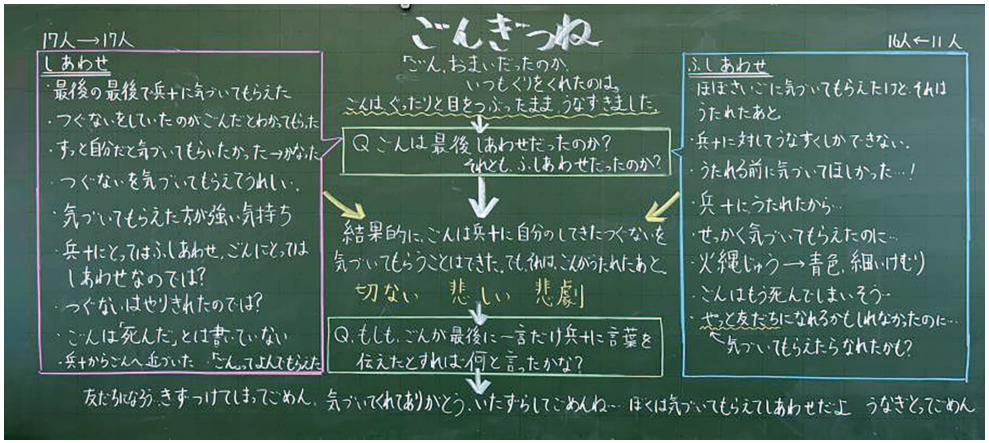
納得解の話し合いをしたいとき

納得解を生み出す

対比型の板書は、二項対立型の問いについて考えたり、納得解を生み出すための話し合いをしたりするときに使います。その時間に子どもたちから出た意見は、とにかくたくさん板書していくことで、最終的な自分の考えをまとめるときに板書がヒントとなるようにしています。

実例１　4年生国語科「ごんぎつね」（12 時目）

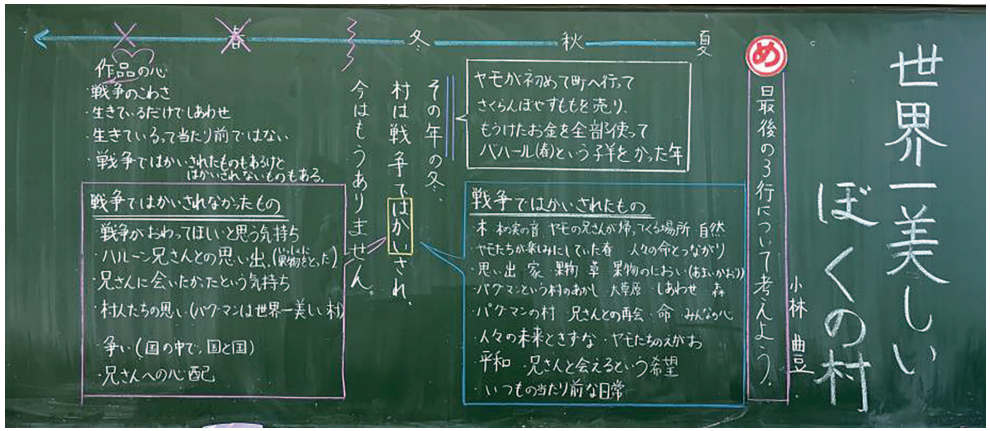
活動内容「ごんは最後、幸せか？　不幸せか？」という問いについて、自分なりの答えをもち、納得解の話し合いをする。それぞれの立場の子どもたちから出た意見を板書していく。



主な発問
・ごんは最後、幸せだったのか？　不幸せだったのか？
・もしも、ごんが最後に一言だけ兵十に言葉を伝えたとすれば何と言ったかな？

実例２　4年生国語科「世界一美しいぼくの村」（4時目）

活動内容　最後の３行について考える。「戦争で破壊されたものと破壊されなかったもの」について子どもたちから出た意見を板書で整理していく。



主な発問・戦争で破壊されたものと破壊されなかったものは何か？

自由対話のススメ

二項対立になる問いをしたときにはいつも、**全体に共有する前に、必ず自由対話の時間をとります。**自分と同じ立場の人、違う立場の人と話し合い、子どもたちが考えを広げることができるようにしたいと思っているからです。

そうすることで、全員が自分の考えを友達に伝えることができるようにしています。

こんなときはベン図型！

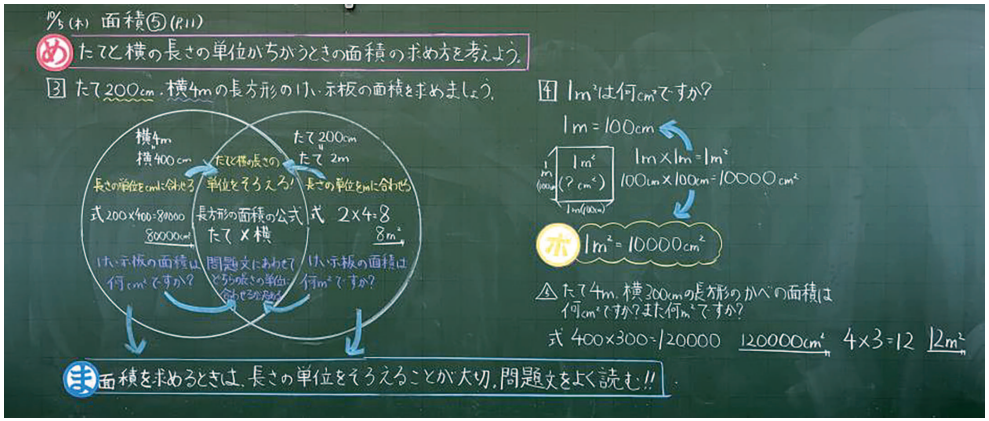
２つのやり方を比較したいとき

答えを求める方法の共通点を見つける

ベン図型の板書は、算数では答えを求める方法が複数あります。それらを比較し、共通点や相違点を見つける活動のときによく使います。

実例１　４年生算数科「面積」（５時間）

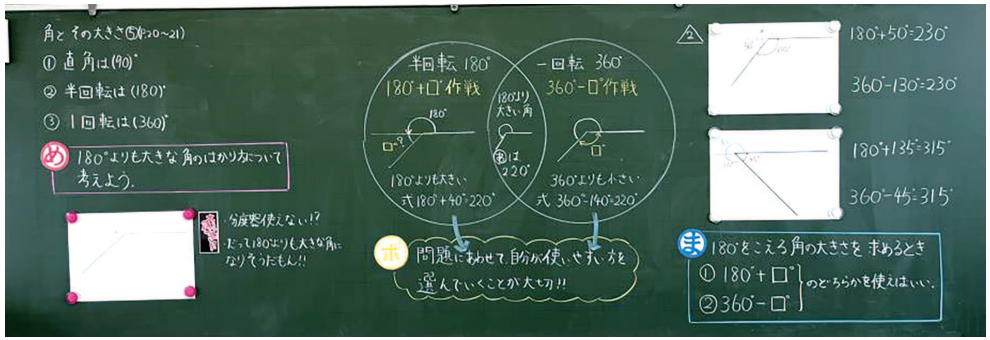
活動内容　縦と横の長さの単位がちがうときの面積の求め方２つをベン図で比較する。その後、長さの単位をそろえることが大事であると気づかせる。



主な発問　・２つのやり方に共通することは何かな？
・どちらのやり方でするのがいいかな？

実例２　４年生算数科「角とその大きさ」（５時間）

活動内容　180°をこえる角の大きさを求めるときの２つの方法をベン図で比較する。問題によって、そのどちらを選べばよいかを考えることが大事であると気づかせる。



主な発問　・どちらのやり方でするのがいいかな？

ベン図型の板書のポイント　～コンパスを使う～

特に、算数科の授業ということもあるので、ベン図を描くときには、きちんと黒板用のコンパスを使って同じ半径の円を描くことをおすすめします。それだけで、見た目が美しくなります。

フリーハンドで描くと、どうしてもゆがんだり、雑に見えたりしてしまいます。円の中に文字を書くときもバランスが崩れ、結果的に見えにくく、わかりにくい板書になってしまうこともあります。そのため、ベン図を描くときには、どの教科でも積極的に黒板用のコンパスを使っていきましょう！

また、経験上、黒板用のコンパスに小さなチョークをはさんで円を描くというのは難しいです。長い新品のチョークを使って描くことをおすすめします。

こんなときは対比型！

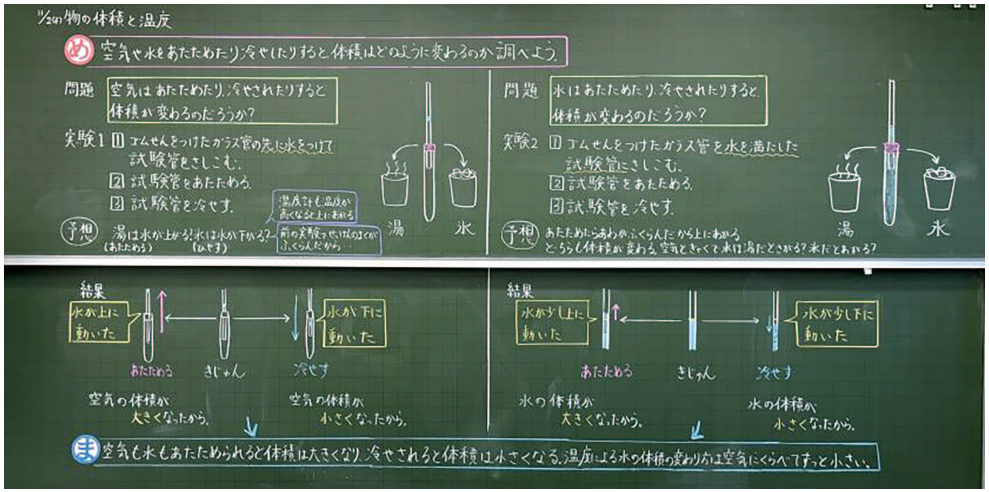
実験Aと実験Bのそれぞれの内容を整理したいとき

まとめを生み出すために

対比型の板書は、２つの実験の内容を整理し、共通点や差異を見つけたいときに使います。「それぞれの結果からどんなことが言えるかな？」と問いかけると、本時のまとめにつながっていきます。

実例１　４年生理科「物の体積と温度」（２・３時目）

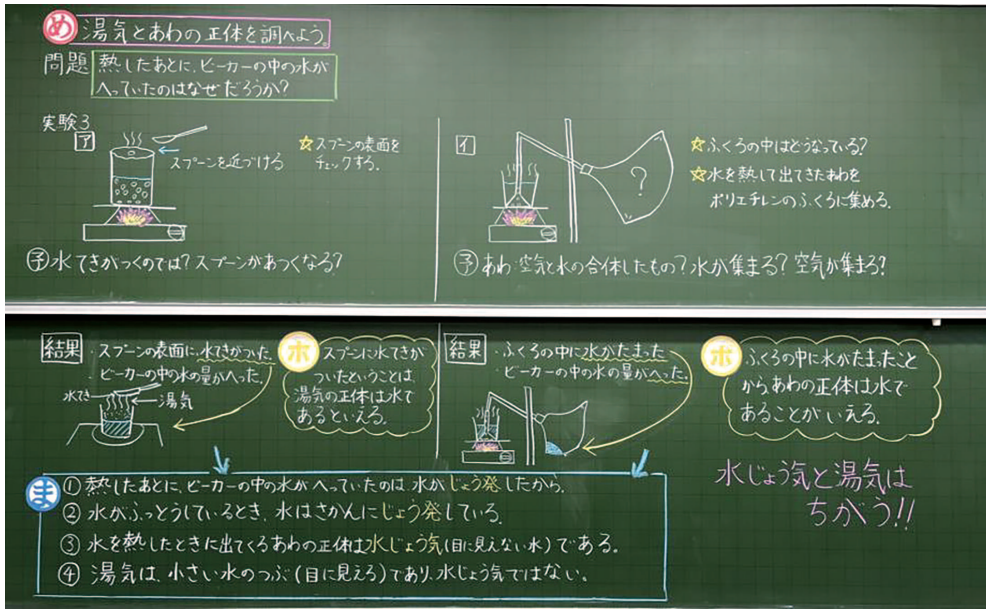
活動内容　空気や水を温めたり、冷やしたりすると体積がどう変わるのかを実験で調べ、それぞれの結果から、どちらも温められると体積は大きくなり、冷やされると体積は小さくなることを理解する。



主な発問　・空気（水）は温めたり、冷やされたりすると体積が変わるのだろうか？
・それぞれの結果からどんなことが言えるかな？

実例２　４年生理科「水のすがたと温度」（５・６時目）

活動内容　２つの実験を通して、水を熱した後にビーカーの水がへっていたのはなぜかを考える。そして、湯気とあわの正体は何かを突き止める。



主な発問　・熱したあとに、ビーカーの中の水がへっていたのはなぜだろうか？
・それぞれの結果から、どんなことが言えるかな？

こんなときは循環型！

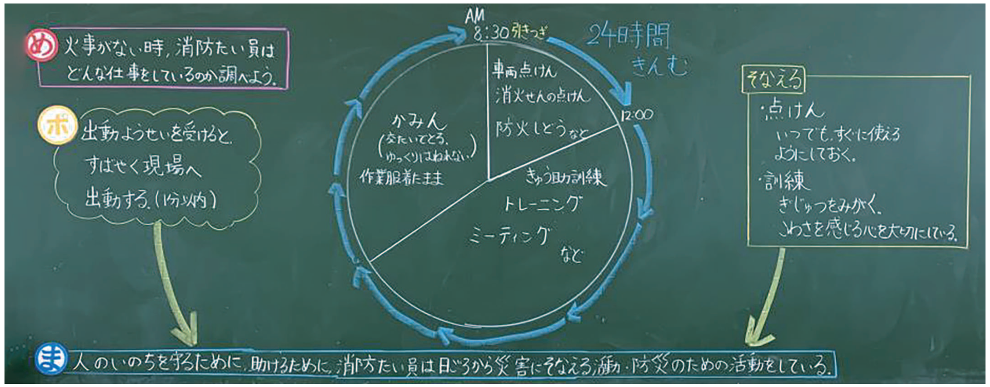
一連の流れが繰り返されていることを表現したいとき

同じ作業・内容が続くことに気づかせたいとき

循環型の板書は、一連の流れが繰り返されていることを表現したいときに効果的です。社会科では同じような作業・内容が日々繰り返されているということに気づくきっかけとして使っています。

実例 1　3年生社会科「安全なくらしを守る人々のくふう」（5時目）

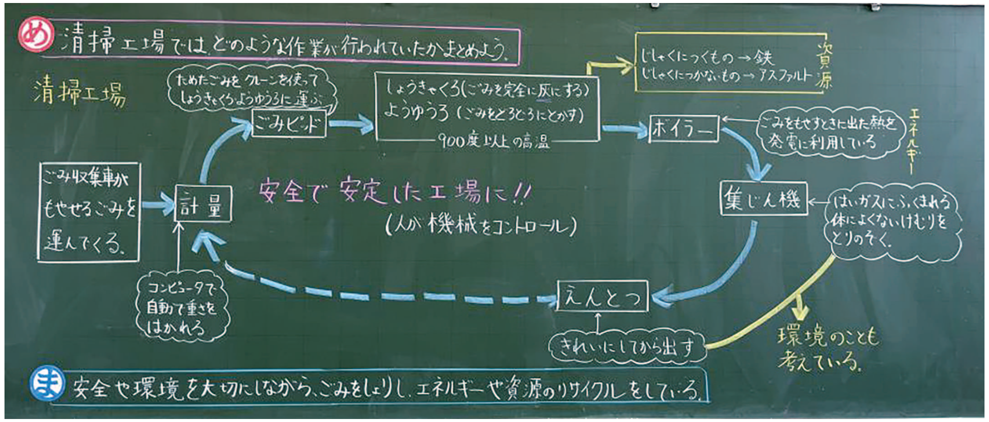
活動内容 火事のないとき、消防隊員がどのような仕事をしているのかを調べ、循環型で整理する。



主な発問 ・火事がないとき、消防隊員はどのような仕事をしていると言っていたかな？

実例 2　4年生社会科「ごみの処理と活用」（8時目）

活動内容 校外学習に行ったとき、清掃工場でどのような作業が行われていたかを伝え合う。それを循環型で整理し、毎日同じ作業工程が繰り返されていることに気づかせる。



主な発問 ・清掃工場では、見学に行ったとき、どの場所で、どのような作業が行われていたかな？

社会科見学での学びを生かす

社会科見学に行って、実際に「見る」「聞く」「体験する」ということは、子どもたちが理解を深める上でとても大切です。

後日、社会科見学で学んだことを学校でふりかえったり、授業の中で見学のときのことを想起させたりすると思います。

そのときに、教科書に書かれている内容との共通点や相違点を見つける活動を取り入れることがおすすめです。